

# 寄 附 行 為

財団法人 慶応工学会

# 財団法人 慶 応 工 学 会

## 寄 附 行 為

### 第 1 章 総 則

#### (名 称)

第 1 条 この法人は、財団法人慶応工学会という。

#### (事 務 所)

第 2 条 この法人は、主たる事務所を東京都港区三田二丁目11番15号三田川崎ビル内に置く。

#### (支 部)

第 3 条 この法人は、理事会の議決を経て、必要の地に支部を置くことができる。

### 第 2 章 目的及び事業

#### (目 的)

第 4 条 この法人は、工学に関する最先端技術の研究ならびにそれに関する国際交流・人材育成に対する援助・支援を行い、あわせて産官学協同体制の推進を図り、もって学術の発展に寄与することを目的とする。

#### (事 業)

第 5 条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 最先端技術に関する研究機関および研究者に対する助成、顕彰
- (2) 大学等における基礎的研究成果の実用化ならびに事業化に対する支援
- (3) 産官学連携による大学の研究成果の社会還元
- (4) 最先端技術に関する国際交流に対する助成
- (5) 最先端技術に関わる人材の育成、奨学ならびに経験豊富な人材の活用
- (6) 学費支弁困難な学生に対する奨学金の授与ならびに成績優秀な学生に対する褒賞
- (7) 委託研究・共同研究の斡旋、紹介ならびに受託研究の受け入れ
- (8) 各種講習会の開催
- (9) その他目的を達成するために必要な事業

## 第3章 資産及び会計

### (資産の構成)

第6条 この法人の資産は、次のとおりとする。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された財産
- (2) 資産から生じる収入
- (3) 事業に伴う収入
- (4) 寄附金品
- (5) その他の収入

### (資産の種別)

第7条 この法人の資産を分けて、基本財産と運用財産の2種とする。

- 2 基本財産は、次に掲げるものをもって構成する。
  - (1) 設立当初の財産目録中基本財産の部に記載された財産
  - (2) 基本財産とすることを指定して寄附された財産
  - (3) 理事会で基本財産に繰り入れることを議決した財産
- 3 運用財産は、基本財産以外の資産とする。

### (資産の管理)

第8条 この法人の資産は、理事長が管理し、基本財産のうち現金は、理事会の議決を経て定期預金とする等確実な方法により、理事長が保管する。

### (基本財産の処分の制限)

第9条 基本財産は、譲渡し、交換し、担保に供し、又は運用財産に繰り入れてはならない。ただし、この法人の事業遂行上やむを得ない理由があるときは、理事現在数の3分の2以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の承認を受けて、その一部に限りこれらの処分をすることができる。

### (経費の支弁)

第10条 この法人の事業遂行に要する経費は、運用財産をもって支弁する。

### (事業計画及び収支予算)

第11条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、理事長が編成し、理事会の議決を経て、毎事業年度開始前に、文部科学大臣に届け出なければならない。事業計画及び収支予算を変更し

ようとする場合も同様とする。

#### (暫定予算)

第12条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない事情により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

#### (事業報告及び収支決算)

第13条 この法人の事業報告書及びこれに伴う収支決算書は理事長が作成し、財産目録、貸借対照表及び正味財産増減計算書とともに、監事の意見を付け、理事会の承認を受けて毎事業年度終了後3月以内に文部科学大臣に報告しなければならない。

2 この法人の収支決算に収支差額があるときは、理事会の議決を受けて、その一部又は全部を基本財産に編入し、又は翌年度に繰り越すものとする。

#### (長期借入金)

第14条 この法人が借入れをしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、理事現在数の3分の2以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の承認を受けなければならない。

#### (新たな義務の負担等)

第15条 第9条ただし書き及び前条の規定に該当する場合並びに収支予算で定めるものを除くほか、この法人が新たな義務の負担又は権利の放棄のうち重要なものを行おうとするときは、理事会の議決を経なければならない。

#### (事業年度)

第16条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

## 第4章 役員、評議員及び職員

#### (役員)

第17条 この法人には、次の役員を置く。

(理事) 15名以上20名以内(うち、理事長1名及び常任理事1名以上3名以内)

(監事) 2名又は3名

### (役員を選任)

第18条 理事及び監事は、評議員会で選任し、理事は、互選で理事長1名、常任理事1名以上3名以内を定める。また、必要ある場合には、理事の互選により副理事長1名を置くことができる。

- 2 特定の理事とその親族その他特別の関係に在る者の合計数は、理事現在員の3分の1を超えてはならない。
- 3 理事及び監事は、相互に兼ねることができない。

### (理事の職務)

第19条 理事長は、この法人の業務を総理し、この法人を代表する。

- 2 副理事長がおかれた場合、副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代理し、又は代行する。
- 3 常任理事は、理事長及び、副理事長がおかれた場合には副理事長を補佐し、理事会の議決に基づき、日常の事務に従事する。
- 4 理事長及び副理事長がともに事故があるとき又はともに欠けたときは、あらかじめ理事長が指名した順序により常任理事がその職務を代理し、又は代行する。
- 5 理事は、理事会を組織して、この寄附行為に定めるもののほか、この法人の業務に関する事項を議決し、執行する。

### (監事の職務)

第20条 監事は、この法人の業務及び財産に関し、次の各号に規定する職務を行う。

- (1) 法人の財産の状況を監査すること。
- (2) 理事の業務執行の状況を監査すること。
- (3) 財産の状況又は業務の執行について不整の事実を発見したときはこれを理事会、評議員会又は文部科学大臣に報告すること。
- (4) 前号の報告をするため必要があるときは、理事会又は評議員会を招集すること。

### (役員任期)

第21条 この法人の役員任期は、2年とし、再任を妨げない。

- 2 補欠又は増員により選任された役員任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
- 3 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。

### (役員解任)

第22条 役員が次の各号の一に該当するときは、理事現在数及び評議員現在数の各々の4分の3以上の議決により理事長がこれを解任することができる。

この場合、理事会及び評議員会で議決する前にその役員に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員たるにふさわしくない行為があると認められるとき。

#### (役員の報酬)

第23条 役員は、有給とすることができる。

- 2 役員の報酬は、理事会の議決を経て理事長が定める。

#### (評議員の選出)

第24条 この法人には、評議員20名以上30名以内を置く。

- 2 評議員は、理事会で選出し、理事長が任命する。
- 3 特定の評議員とその親族その他特別の関係にある者の合計数は、評議員現在数の3分の1を超えてはならない。
- 4 評議員は、役員を兼ねることはできない。
- 5 評議員には、第21条の規定を準用する。この場合において、この規定中「役員」とあるのは、「評議員」と読み替えるものとする。

#### (評議員の職務)

第25条 評議員は、評議員会を組織して、この寄附行為に定める事項を行うほか、理事会の諮問に応じ、理事長に対し、必要と認める事項について助言する。

#### (事務局及び職員)

第26条 この法人の事務を処理するため、事務局及び必要な職員を置く。

- 2 職員は、理事長が任免する。
- 3 職員は、有給とする。

## 第5章 会 議

#### (理事会の招集等)

第27条 理事会は、毎年2回一定の時期に理事長が招集する。ただし、理事長が必要と認めるとき、又は理事現在数の3分の1以上から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求されたときは、理事長は、その請求があった日から14日以内に臨時理事会を招集しなければならない。

2 理事会の議長は、理事長とする。

#### (理事会の定足数等)

第28条 理事会は、理事現在数の3分の2以上の者が出席しなければ、議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者及び他の理事を代理人として表決を委任した者は、出席者と見なす。

2 理事会の議事は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

#### (評議員会)

第29条 次に掲げる事項については、理事会においてあらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

- (1) 事業計画及び収支予算に関する事項
- (2) 事業報告及び収支決算に関する事項
- (3) 基本財産についての事項
- (4) 長期借入金についての事項
- (5) 第1号、第3号及び前号に定めるものを除くほか、新たな義務の負担及び権利の放棄についての事項
- (6) その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

2 前2条の規定は、評議員会についてこれを準用する。この場合において、前2条中「理事会」並びに「理事長」及び「理事」とあるのは、それぞれ「評議員会」並びに「評議員会議長」及び「評議員」と読み替えるものとする。ただし、評議員会の議長は、評議員の互選によって定める。

#### (委員会)

第30条 この法人の事業運営上必要があるときは、理事会の議決により委員会を置くことができる。

2 委員会の組織、その他必要な事項は別に定める。

#### (議事録)

第31条 すべての会議には、議事録を作成し、議長及び当該会議において選任された出席者の代表2名以上が署名押印の上、これを保存する。

## 第6章 寄附行為の変更及び解散

### (寄附行為の変更)

第32条 この寄附行為は、理事現在数及び評議員現在数の各々4分の3以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の認可を受けなければ変更することができない。

### (解 散)

第33条 この法人の解散は、理事現在数及び評議員現在数の各々の4分の3以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

### (残余財産の処分)

第34条 この法人の解散に伴う残余財産は、理事現在数及び評議員現在数の各々の4分の3以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の許可を受けて、この法人の目的に類似の目的を有する公益法人に寄附するものとする。

## 第7章 名誉会長及び顧問

### (名誉会長及び顧問)

第35条 この法人に名誉会長1名及び顧問若干名を置くことができる。

### (選 任)

第36条 名誉会長は、この法人に多年功績のあったものにつき、理事会の議決を経て、理事長が委嘱し、顧問は学識経験者のうちから、理事会の議決を経て、理事長が委嘱する。

### (職 務)

第37条 名誉会長及び顧問は、理事長の諮問に応じ、この法人の事業の運営に参加する。

## 第8章 雑 則

### (書類及び帳簿の備付等)

第38条 この法人の事務所に、次の書類及び帳簿を備えなければならない。ただし、他の法令により、これらに代わる書類及び帳簿を備えたときは、この限りでない。

- (1) 寄附行為
- (2) 役員その他の職員の名簿及び履歴書

- (3) 財産目録
- (4) 資産台帳及び負債台帳
- (5) 収入支出に関する帳簿及び証拠書類
- (6) 理事会及び評議員会の議事に関する書類
- (7) 官公署往復書類
- (8) 収支予算書及び事業計画書
- (9) 収支計算書及び事業報告書
- (10) 貸借対照表
- (11) 正味財産増減計算書
- (12) その他必要な書類及び帳簿

2 前項第1号から第4号までの書類、同項第6号の書類及び同項第8号から第11号までの書類は永年、同項第5号の帳簿及び書類は10年以上、同項第7号及び第12号の書類及び帳簿は1年以上保存しなければならない。

3 第1項第1号、第3号及び第8号から第11号までの書類並びに役員名簿は、これを一般の閲覧に供するものとする。

**(細 則)**

第39条 この寄附行為の施行についての細則は、理事会及び評議員会の議決を経て、別に定める。

## 附 則

附則 1 ～ 7 は、この寄附行為が施行される以前、平成14年 5 月 8 日に改正された寄附行為の附則 1 ～ 7 を記載したものである。

- 1 この寄附行為は、1962（昭和37）年 9 月 7 日から施行する。
- 2 本会の設立当初の役員は、第22条の規定にかかわらず、別紙のとおりとする。
- 3 本会の設立当初の役員の任期は、第23条第 1 項の規定にかかわらず、1963（昭和38）年 3 月31日までとする。
- 4 本会の設立初年度の事業計画及びこれに伴う収支予算は、第11条第 1 項の規定にかかわらず、別紙のとおりとする。
- 5 本寄附行為第15条第 2 項及び第32条第 1 項の改正部分は、文部大臣の認可書到達の日1982（昭和57）年 5 月24日より施行する。ただし、現に理事および評議員の職にあるものは、本改正規定にかかわらず、なお従前の規定に従い、任期までその職に当るものとする。

[1982（昭和57）年 5 月24日改正]

- 6 文部科学省より平成13年 1 月 6 日付で「文部大臣」が「文部科学大臣」と改正された通知に接し、この寄附行為の 8 箇所の条文「第 7 条、第11条、第12条、第14条、第21条、第42条、第44条、第45条」を改正した。

[2001（平成13）年 5 月24日改正]

- 7 本寄附行為第 2 条（事務所）本会は、事務所を東京都新宿区新宿 3 丁目17番 7 号紀伊國屋ビル内に置く。から東京都港区三田二丁目11番15号三田川崎ビル内に置く。に改正した。

[2002（平成14）年 5 月 8 日改正]

- 8 文部科学大臣より2007（平成19）年 5 月24日付の改正認可の通知に接し、この寄附行為の40箇所の条文「第 1 条～第39条、附則」を2007（平成19）年 5 月24日に改正した。

- 2 施行は、2007（平成19）年 5 月24日からとする。